

# 備えの重要性伝える

# 学んだこと共有する

## 「次世代塾」修了式で決意新た

16日に開かれた東日本大震災の伝承講座「3・11」伝える／備える」次世代塾」の修了式で、修了生が1年間の講座を振り返るグループワークもあった。講座を通じて考えたことや伝承に

向けて必要なことを議論し、一人一人が震災を語り継ぐ重要性を確かめた。

(1面に関連記事)

修了生約70人は10人前後の班に分かれて討論。「震災を自分のこととして捉え

るきっかけになった」「生活の中で災害を考える習慣が身に付いた」など意識の変化を挙げる声が相次いだ。

東北福祉大2年の村越未来さん(20)は「災害はいつ

どこでも起きうる。備えの大切さを周囲に伝えたい」と強調。同大2年の及川晟也さん(20)も「学んだことを友達と共有していく」と話した。

教師を目指している宮城教育大2年の塚本健「さん(21)は「教師になったとき、生徒の命を守るため何ができるか考えたい」と決意を新たに示した。

「災害に備え、日頃からのつながりを持つことが重要だと講座で学んだ」。修了式の答辞で訴えた東北工大2年の五嶋大暉さん(20)は「震災の記憶が風化してきている今だからこそ、率先して伝える側になる」と力強く語った。

いのちと  
地域を  
守る

## 第3期受講生募集

来月開講

伝承講座を運営する「3・11次世代塾推進協議会」は、4月20日に開講する第3期の受講生を募集している。10代後半から20代前半までの高校生や大学生、社会人が対象で受講無料。

毎月第3土曜日の午前を基本に15回、仙台市宮城野区の東北福祉大仙台駅東口キャンパスで開く。うち3回は石巻市や東松島市などの津波被災地を視察する。

復興期の3段階に分け、講座ごとに「捜索と救命」「避難所の苦闘」「なりわい再生」といったテーマを設定。毎回、被災当事者や支援者ら2人を招き、証言と体験に基づく教訓を聴く。グループ討議の時間も設けて理解と交流を深める。

連絡先は事務局の河北新報社防災・教育室022(211)1591、メール [ft.jisedai@po.kahok-u.co.jp](mailto:ft.jisedai@po.kahok-u.co.jp)



グループワークで1年間の学びを振り返る受講生ら  
＝仙台市宮城野区の東北福祉大仙台駅東口キャンパス

震災発生直後、復旧期、